

火の用心！春の火災予防運動

春の火災予防運動が4月8日から14日の日程で実施され、運動前日の7日には鶴田町消防団（下山正彦団長）が管内全域で広報パレードを行いました。

パレードでは、査察者の相川町長や下山団長らが町内15か所の屯所を巡回。各屯所では団員らの出勤状況の報告、服装や姿勢などの確認を行いました。また、団員らは日々使用する器具の点検や放水訓練などを素早く行い、緊急時に即応できる体制を披露していました。



放水訓練を行う消防団員



ダンボールメンコで遊ぶ子どもたち

地球環境について考えるアースデイ

4月13日、地球環境について理解を深めてもらう「アースデイ2024」が国際交流会館で開催され、町内の小学生が参加しました。

今回のアースデイは国際交流員のアネイスさんやジャクリンさん、町ジュニアリーダーたちが中心になって企画。イベントではアースデイの意義や地球環境について説明したあと、ダンボールとチラシでアート作品を作成やダンボールできたメンコ遊びが行われました。子どもたちは遊びを通して、普段ごみとして捨てているものの再利用について学んでいました。

鶴田 BBC が県大会出場を決める

4月27日、第44回全日本学童野球大会の北郡予選が町営球場で行われ、町の少年野球チーム鶴田 BBC が出場しました。

予選は鶴田、板柳、北津軽連合チームの3チームの総当たり戦で行われ、鶴田 BBC は1試合目の北津軽連合チームに勝利。2試合目の板柳との試合では、序盤から相手のペースで試合が運ばれ、2点をリードされて迎えた最終回裏の鶴田の攻撃で打線がつながり、5x-4で鶴田のサヨナラ勝ちとなりました。

予選1位の鶴田 BBC は、6月15日・16日に弘前市で行われる県大会に出場します。



県大会出場を決めた鶴田 BBC

地域おこし 協力隊通信

Vol.66 (筆：毛利精悟)

協力隊の任期も残り2年。期限内にミッション(事業承継・町のプロモーション)を実行しつつ、町内への永住体制を整える必要があります。初年度は津軽「たんげ」ブランドへの参画、都庁でぶどう販売、有楽町で移住相談会、ぶどうジュースの海外販売等の活動を通して多くの方々にご助言やサポートをいただき、とても濃い1年でした。今年は町内会の班長を担当することになりました。さらに鶴田町や津軽地域を深く知りたいと思います。

ツル多はげます会の事務局活動では、メディア対応や新会員の受付、会計などを担当。最近では海外からの問い合わせも増えており、鶴田町の重要な観光資源だと感じます。頭の光で世界を照らす趣旨にご賛同くださる方の登録をお待ちしております。

引き続き空き倉庫やガレージ、ビニールハウスを探しています。情報募集中です。



左：ツル多はげます会例会にて

右：東京、有楽町での移住相談会



Facebook



Instagram

地域おこし協力隊の活動内容は、各種SNSでも確認することができます。

地域おこし協力隊

おびかわ たくみ

(五所川原市出身)

帯川 匠 さん

首都圏からUターン 津軽のぶどう農家を目指す

4月1日、新たな地域おこし協力隊として着任した、帯川匠さんについてご紹介します。

志望したきっかけ

私は高校卒業後に首都圏の会社に就職しましたが、両親の定年退職を機に青森県に戻ろうと思っていました。もともと農業に興味があり、特にブドウが好きだったため、やるならブドウしかない！と思っていたところ鶴田町で地域おこし協力隊を募集すると聞き、即座に応募しました。

鶴田町に着任して

父親が鶴田町出身で子供の頃から身近に感じており、都会とは違い空気が綺麗で、町内のどこにいても岩木山に見守られている、安心感のある町と思います。

町役場の方をはじめ、お世話になっている成田師匠や住民の方々全員が心優しく、新規就農をするにあたりとても心強いです。移住してきたばかりですが、鶴田町に恩返しができるよう、日々努力していきたいです。

● 帯川 匠 おびかわ・たくみ

任務：スチューベンぶどうの情報発信や販促
ぶどう農家として就農

出身：五所川原市（前住所 埼玉県越谷市）

略歴：五所川原農林高校卒業後、首都圏の木材会社に就職。その後は埼玉県内の会社に転職して働いていたが、地元で農業をやりたい気持ちが芽生え、町の地域おこし協力隊になることを決意。

地域おこし 協力隊通信

Vol.67 (筆：葛西 忍)

協力隊任用からまる1年。スチューベン就農への道はシーズン2へと突入しました。

シーズン2はこれまでの師匠についてのマンツーマンの指導から独立を見据えた活動へととなります。

よちよち歩き状態ですが剪定、結束を終え、葉がけ、肥料まきなどを行いました。まずは芽が無事に膨らみ出してホッとしております。

しかしながら、今年も気温が高めに推移しているようで成育が早い早い。まるでよちよち歩きの私たちを突き放すかのようです。また、ぶどうの枝やエスター線にも「ビュン」と顔を傷つけられることもしばしば。ただの「チャかし」という説もありますが新参者には厳しいようです。とは言えそれも面白がりながら、そして今回チャンスをくださり、温かい声をかけてくださる周りの方への恩と感謝を忘れず真摯に取り組んで参りたいと思います。



▲協力隊2年目の葛西さん。日々の農作業を行い知識を蓄える



Facebook



Instagram

地域おこし協力隊の活動内容は、各種SNSでも確認することができます。